

## 今週のことば「目を開く」

《聖書》ルカによる福音書 24:13-35

### 気づかぬいできごと

私たちの回りには、私たちの気がつかないうちに起こっているたくさんことがあります。私たちは何でも見ているようで見ていなし、何でも聞こえているようで聞こえてなし、何でも感じているようで感じていないのです。

私たちの回りには、草木がいっぱいあります、たいていは、私たちの寝ている間に芽を出したり、花が咲いていたりします。私たちが水をやらなくても、自然に種から芽が出て、どんどん成長していきます。

### イエスは弟子の目を開かれる

今日の福音の話しさは、イエスの復活のことを理解するのにとても助けになります。

エマオという村へ向かった二人の弟子たちは、途中復活したイエスと出会ったにもかかわらず、目がさえぎられていて、イエスだと分からなかつたと伝えています。イエスの復活は、誰もが認めた出来事ではないのです。イエスのことを理解しなかつたり、信じない人には見えない出来事なのです。

二人の弟子たちは、イエスがパンをさ

いて渡された時に、目が開けたと伝えています。イエスと一緒にいた記憶に残っていた出来事に出会った時に、始めてイエスだと気づくことができたのです。

私たちも弟子たちと同じような体験をしているにちがいありません。復活されたイエスは私たちの気づかない所で働いておられるのです。イエスは2千年前のイスラエルの地で活動されたので、生前のイエスと出会った人は限られています。しかし、復活したイエスと出会った人はたくさんいます。イエスの弟子たちを迫害していたパウロも、ある時復活したイエスと出会ったと語っています。

つまり、復活したイエスの活動は、時間にも場所にも制限されないということです。こうした意味で、復活したイエスは今でも私たちの知らない所で活動されているのです。

ですから、どこにイエスの示された福音があるのか、よく目を開いて見ることが大切です。まさかこんな所では、復活したイエスが働いておられないだろうと思いつこんでしまうと、とんでもないまちがいを起こしてしまいます。エマオという村へ向かった二人の弟子たちのように、あとで振り返って、どこでいつ復活されたイエスと出会ったかを考えてみることが大切です。いつも、心の目を開くようにしましょう。

復活節第3主日A年福音(瀧野正三郎)